

2024 6/11

No.2212

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



飛鳥時代の倉庫などを復元した「橘樹<sup>たちばな</sup>歴史公園」(川崎市高津区)のオープン記念式典が5月18日行われた。園内には国指定史跡「橘樹<sup>かんじゆ</sup>官衙遺跡群」があり、倉庫は板校倉造<sup>いたまがくらぞう</sup>で復元した。



視点点描	3
各地の魅力伝える店舗	
特集	4
ライドシェア 担い手不足に効果？ タクシー離れ進行、足の確保、困難も	
経済双眼鏡	8
「分厚い中間層」復活へ一歩か 大幅賃上げ実現、経営者は設備投資を	
よんななエコノミー	9
「押し旅」押し上げる地方開催 ファン、遠征、経済効果大きく	
蝶花楼桃花のNEWS著休め	10
表情リクエスト	
舟越美夏×リアルワールド	11
ミャンマー、市民の抵抗のうねり	
本郷和人 歴史の舞台をゆく	12
信長の花押・印判・岐阜命名	
かながわTODAY	14
5月の主な経済ニュース	

### 事務局だより

◇2024年7月定例講演会  
7月3日(水)午後1時30分～3時  
県民共済みらいホール(みなとみらい21)  
講師：歴史作家・伊東 潤氏  
演題：「武将たちの決断～歴史から学ぶ七つの教訓」

◇2024年8月定例講演会  
8月22日(水)午後1時30分～3時  
メルヴェーユ(みなとみらい21)  
講師：日体大理事長・松浪 健四郎氏

【お知らせ】決算総会は6月21日午後2時から神奈川新聞社で開催します。名義人ご本人様が出席されない場合は、委任状をお願いします。

# 視点 点描



## 各地の魅力伝える店舗

経済部時代は月に1回ぐらい、東京・日本橋兜町かぶとちょうの東京証券取引所内にある記者クラブ「兜倶楽部」に足を運ぶ機会があった。昼食や弁当の買い出しで歩いた日本橋エリアには富山や滋賀、山口など自治体のアンテナショップが多いことに気付いて以来、時間に余裕があると立ち寄るようになった。そんなきっかけから、休日にな

ると定期的に都内のアンテナショップ巡りに出掛けている。三重の「赤福」、長野の「信州サーモン」など、その土地ならではの銘菓や名物を買ったり、レストランを併設している店舗もあって、長崎で「ちゃんぽん」、鳥根で「どぐる井」など本場の美味を楽しんだり。復興の一助というわけではないが、福島ではいつも地場の

海産物を購入するようにしている。今年3月、東京・八重洲に移転オープンした石川の店舗は多くの人が訪れ、大変なにぎわい。人気商品は「入荷待ち」が目立つ。全国の自治体や民間団体・企業でつくる一般財団法人・地域活性化センターの「2023年度自治体アンテナショップ実態調査報告」によると、都内の店舗数は、独立型62（都道府県36、市区町村26）、コンビニや商業施設内の集合型5の計67店舗。ピークの81店舗（20年度調査）よりは少ないが、32店舗（全体の52%）で年間総売上額が1億円を超すなど、新型コロナウイルスの5類移行を経て、売り上げは回復傾向という。

中でも、北海道、広島、沖縄の3店舗は7億円以上と人気が高く、飲食部門だけの売上額では「黒豚」が有名な鹿児島が2億円以上でトップ。入館者数では、北海道と栃木が年間100万人を超え、福井、長野、広島、沖縄が70万人以上で続いている。神奈川新聞は4月25日、「市町村4割『消滅可能性』と報じた。『消滅』とは人口減少が進んで自治体運営が立ちゆかなくなる状況を指し、全市区町村の40%超に当たる744市町村に可能性があるという（県内は1市5町）。自治体の中には、アンテナショップに移住の相談窓口を設けているところもある。店頭に並んでいるのは、ほとんどが中小企業の商品だ。全国各地の多種多様な特産品、おいしいものも地域の大きな魅力の一つ。人口減少で、消滅してしまつては悲しい。たいして足しにはならないと分かっているが、足しげくアンテナショップへ買い物に行くつもりだ。（神奈川新聞社編集総務部長・吉田 勝行）